

令和2年2月25日

会派合同行政視察(豪雨災害現場等) 報告書

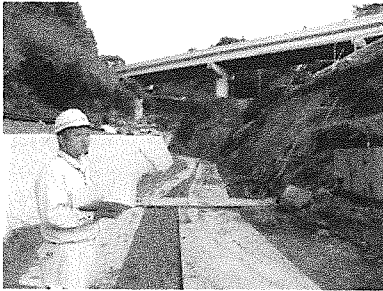
報告者 無会派 小玉 忠宏

【参加会派】

太陽の会(迫間・永田(照)・上坂) 志民の会(神脇・広瀬) 無会派(小玉)

【調査項目、調査地・日時】

- 1 **広島市役所(平成30年7月豪雨災害による被災地の現状・対策等)について**
調査地『広島市役所・安芸区矢野町2現場』
調査日時 令和2年1月29日(水) 14:30～17:50
- 2 **宇和島市役所(平成30年7月豪雨災害による被災地の現状・対策等)について**
調査地『宇和島市役所・吉田町』
調査日時 令和2年1月30日(木) 14:30～17:00



安芸区矢野町の現場

1 調査の目的

本市も過去に山間地の西岳地区において、ゲリラ豪雨により死者や家屋、田畑等の甚大な被害経験を有している。平成30年7月に、広島市や愛媛県宇和島市で豪雨災害が発生した。両市の当時の対策やその後の取り組みを研修し、本市の今後の備えに資することを目的として訪問した。

2 豪雨災害による被災地の現状と対策等について

(1) 広島市の豪雨災害による被災地の現状と対策等について

平成30年7月6日～7日にかけて、広島市の山間部に豪雨が降り注ぎ

〔人的被害〕 死者27人(関連死4名を含む)、行方不明者2人、
負傷者30人(重傷12、軽傷18人)
避難者数 最大8,423人

〔物的被害〕 家屋全壊111棟 半壊358棟 一部破損130棟、
床上浸水894棟 床下浸水978棟 合計22,471棟

(令和元年12月25日時点)

以上のような、甚大な災害が発生した。

【災害応急対策】

現地指揮本部を立ち上げ、現場からの報告に基づきミーティングを実施。そして、各機関の分担表を作成し救助活動を最優先に昼夜を問わず捜索活動を行った。

【避難所対策】

避難所対策としては、環境整備を重点に

★段ボールベッド及び間仕切りの設置

★大型エアコンの設置

★簡易シャワールの設置 ★仮設トイレの設置
が行った。

【橋や道路、護岸崩壊対策・宅地内土砂流入対策】

生活の確保や災害復旧を図るため、道路決壊が起きた安佐北区白木町の応急復旧工事を被災後早急に取り組み、宅地内土砂流入除去のためのボランティア等を受け入れた。

【防災・減災対策の取り組み】

★災害対策等検証会議による検証

平成 30 年 9 月 5 日に第 1 回会議が開かれ、国に提言書を提出(平成 30 年 12 月 27 日)。

★避難対策等検証会議の検証

提言の基本的な柱として、ひとりひとりが災害を『我が事』と思う意識と命を守るのは『地域コミュニティの力』を柱に防災・減災対策を展開。さらに、地域の防災リーダー養成講座やフォローアップ研修を行い新たな災害への取り組みに備えた。

★わがまち防災マップの作成支援

- 地域の隠れた危険箇所の『見える化』
- 災害に応じた避難場所
- 公衆電話・AED 等災害時使用施設情報

★地域に於ける防災訓練の支援

初期消火訓練・避難訓練・避難所運営訓練・炊き出し訓練

★防災研修会等の開催

- 防災講演会の開催
- ～映像資料等により、災害を経験してない住民に対する災害体験～

★防災ライブカメラの設置支援

災害発生予想地域や豪雨などによる災害が予想される地域に予めカメラを設置し避難対策等に備える。～被災地をモデル地区として重点的に取り組みその成果を全市に展開～

★小学生防災キャンプを実施

炊き出し体験や防災ゲーム、ドラム缶風呂、宿泊体験を行う。

★避難誘導のアプリの導入

避難所への誘導、道順やルートの検索。
さらに、防災情報メールの配信地区を細分化して災害教訓の伝承に取り組んでいる。

(2) 宇和島市の豪雨災害による被災地の現状と対策等について

平成 30 年 6 月 28 日～7 月 8 日に掛けての四国地方の総雨量は、1. 800mm で、7 月の降水量平年値の 2～4 倍となった。宇和島市に 7 月 5 日から降り始めた雨は 7 月 7 日は、時間雨量 100mm に迫る記録的な大雨となり、特に宇和島市の吉田(奥南)では 96mm を記録する豪雨となった。

〔人的被害〕

死者 13 人(災害関連死 2 名を含む) 行方不明者 0 人 負傷者 29 人(被災見舞金申出者数)

〔住宅被害に関する状況〕

	宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	合 計
家屋 全壊	3	56	2	0	61
大規模半壊	2	111	1	1	115
半壊	64	709	14	16	803
一部 損壊	157	550	57	20	784
合計	226	1,426	74	37	1,763

り災証明交付状況(1 月 31 日現在)

〔避難所開設状況〕

	宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	合計
避難所	12	24	3	2	41
避難世帯	37	526	54	11	628
避難者	67	977	92	13	1,149

(7月4日14時現在)

〔生活基盤施設等の被災状況〕

	宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	合計	備考
水道(断水)						
人数		9,867	5,450	15,317	15,317	最大値
世帯		4,210	2,358	6,568	6,568	
電気(停電)	1,571	5,872	780		8,223	最大値
道路	24	359	20	17	644	1/31 現在
河川	76	431	10	40	186	〃
小中学校	2	4		1	5	親水・土砂流入
保育所	1	3		5	14	浸水被害

〔災害の概要〕

基幹産業である第一次産業を中心に被害を受けた。また、直接的な被害にとどまらず、吉田地区、三間地区については、約一ヶ月水道の断水がつづいたことや三間地区では、通水後も飲用可となるまで、さらに1ヶ月を要し多くの産業に支障をきたした。

〔商業事業者の状況〕

	宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	合計
被災事業者	69	235	10	2	316件
被害推計額	20億9,212万円				

多くの事業所で店舗や生産設備等が被災。市内小中企業316業社が直接的な被害を受け、営業の休止や縮小を余儀なくされた。なお、農林業の被害が209億2,858万円(水稲・野菜・果樹・果樹樹体・家畜) 水産業が2億2,858万円(マダイのへい死)

以上の被害が発生した。

【災害対策本部配備・避難勧告の発令状況】

～気象情報：松山气象台～

7月5日	09:14	宇和島市災害対策本部設置	大雨警報により
6日	04:25	土砂災害警戒情報	
	04:49	洪水警報発表	
	05:00	避難勧告発令	1,059世帯2,177人
7日	06:25	注意喚起放送	避難勧告発令情報 避難所開設情報
			屋内避難を含め早期避難を促す
	06:28	記録的短時間大雨情報発表	
	07:00	避難勧告発令	37,321世帯79,430人
			(市内全域の土砂警戒区域等)
	07:46	記録的短時間大雨情報発表	
	09:00	避難勧告発令	2,394世帯4,565人
			(和霊中町他須賀川周辺地域)
8日	09:55	大雨特別警報	
9日	12:00	避難勧告解除	
8月20日		宇和島市災害対策本部設置廃止／宇和島市災害復興本部設置	

【宇和島市二次災害緊急避難計画策定】

崩壊した現場は、現在も地肌が露出し地盤が安定しておらず、今後の降雨による二次災害に備えるため、土砂災害専門家(TEC－FORCE 高度技術指導半班)の調査結果からの国土交通省による技術的助言により、宇和島二次災害緊急避難計画(暫定)を作成。

～対象地区～

緊急避難区域 吉田町全域

警戒区域 吉田町内の緊急警戒区域を除く区域

～緊急警戒区域に対し、避難勧告等の発令基準を一段階早めた暫定基準の運用を行う。～

3 視察の成果及び市政への反映等

(1) 視察の成果

被災後約1年6ヶ月を経過し、復旧工事は進んでいるものの完成にはまだ時間を要するものと思える。災害発生後直ちに、広島市・宇和島市共に早急に対策本部を設置し気象庁の情報を受け災害対策に取り組まれているが、

広島市は、

人的被害が、 死者27人(災害関連死4名を含む) 行方不明者2人、
負傷者30人(重傷12、軽傷18人)

宇和島市は、

人的被害 死者13人(災害関連死2名を含む) 行方不明者0人、
負傷者29人(被災見舞金申出者数)

犠牲者も多く出ている。

広島市の土砂災害は、真砂土層のため流出し易い地層であった事も大きな要因であると説明された。そのような山の斜面に人家が密集して建設され、さらには、人家近くを流れる川は狭く必然的に洪水となって災害が発生したと思われる状況もあった。

課題としては、住宅の建設許可基準を見直す必要性も考えた。

宇和島市は、比較的住宅地から離れた山に降った雨が住宅地を襲っている状況や、傾斜の厳しいミカン畑等に降り注ぐ豪雨による土砂災害が発生。地肌をむき出しになったみかん山も研修時点も散見され国の支援待ちとなっていた。道路や家屋を襲った土砂が市野球場に一旦プールされており、関係者に尋ねると「このような事態が起きないように予め土砂の搬出場所を備えておく必要がある」と説明された。

本市でも、西岳地区のゲリラ豪雨や新燃岳の噴火による降灰災害が発生した。対策として、都城市議会は「都城市議会大規模災害特別委員会」を設置、現場の声や復旧状況等を調査研修し今後の災害に備える取り組みを行った。が、被災者との意見交換会では、議会の活動が見えないと言った被災地区の苦言もあった。

その後、特別委員会は阿蘇山に降り注いだ豪雨(台風)が熊本市内に濁流となって災害をもたらした熊本市。と、雲仙普賢岳の大爆発により火砕流が発生した、(災害対策に従事していた消防関係者や警察官、行政の方々、取材に従事していた報道関係者等が亡くなった)被災地の行政視察を行った。

熊本市は説明によると、土砂災害や道路の決壊、流木・倒木等の情報が災害対策本部に殺到し混乱した。対策としてランク付けによる現場対応や人命にかかわる現場では、医師の協力によりトリアージによる救助活動に取り組んだことが報告された。

雲仙普賢岳では、行政が開設した被災者等相談窓口で議会も交代制で同席し相談に立ち会った旨、説明があった。本件視察は委員長として調査に臨み、その後の取り組みで、窓口での立ち会いを本市の取り組みに提案したが成立に至らなかった。（再検討すべき課題であると思う）議会は、市民の代表者として被災者の声を聞き、現場に足を運び現場に学んで議会活動に活かすことを責務としなければならないと思う。本研修を終えて「大規模災害特別委員会」は災害対策に対する体制づくりを作成し解散した。近年突発的に発生する各種災害等を教訓として必要により見直しを図り、予期しない突発的な災害に備えなければならない。と再認識した研修であった。

（２） 市政への反映等

本市も、山間部やその他の地域に於いて、突発的に発生する災害を想定し各種法整備にも取り組み有事に備える必要性を研修した。土砂等の置き場も予め計画し二度手間をかけない。

近年の災害は、突発的に発生し予想もしない甚大な被害をもたらしている。しかし、歴史を遡ると同様の災害が過去に発生していたことも数多く確認出来る。災害の発生は時代につなぐ資料として記録し、全国で発生している災害は教訓として既存の取り組みや備えを万全なものとし、斬新的にあらためるべきものは改め有事に備える必要性を学んだ。



野球場に一時保管されている土砂



吉田地区の山崩れの現場



宇和島市役所で研修中の状況